

2025年6月

6月17日(火)、第3回目の総合講座が開催され、小笠原副院長による「ICに始まりSDMからACPへ」と題した講義が行われました。今年の講義は昨年とは異なる視点からのアプローチがありました。

IC(インフォームド・コンセント)は研修医にとって非常に重要なスキルです。医師が患者に対して病名、治療の目的、方法、リスク、代替可能な治療法などを説明する際には、専門用語を避け、以下の3つのポイントを守ることが求められます。

1. 十分な説明
2. 患者本人の理解と納得
3. 自発的な同意

これらを通じて患者さんとの信頼関係を築くことが重要です。患者さんの話をしっかりと聞き、共感を示すことが大切であると話されました。また、非言語的コミュニケーションも重要であり、身だしなみや表情、身振り手振り等が患者さんの安心感につながると解説されました。

ACP(アドバンス・ケア・プランニング)については、健康な時から始めるのが理想であり、病気になってからではなく、元気なうちに情報を共有する必要があります。家族や医療チームとオープンに話し合い、共通理解を得ることが大切です。

また、すべての医療においてコミュニケーションが重要であることが強調されました。患者さんと話す際に意識すべき内容がスライド24枚に凝縮され、研修医にとって新たな気づきが多かったのではないのでしょうか。

最後に、「患者の心に寄り添い、人間味あふれる医師を目指してください」と締めくくられました。

